

# 株主との価値共有を深め、グローバル競争力を強化する役員報酬制度の見直しについて

当社は、「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていくこと」というパーパスの実現に向けて、中期経営計画の達成を目指すにあたり、業績や株主視点での価値と報酬の連動性を一層強化し、グローバルに競争力のある役員報酬にするべく、本日開催した取締役会において、2024年度以降の役員報酬制度を以下のとおり見直すことを決定しました。

そのうち、「業績連動型株式報酬制度（パフォーマンス・シェア・ユニット）」および「譲渡制限付株式ユニット制度」（リストラクテッド・ストック・ユニット）」の改定については、2024年6月24日開催予定の第124回定時株主総会において、議案が承認されることを条件とします。

## 【役員報酬制度の見直しについて】

### 1. 業務執行取締役

#### ・報酬水準の考え方

従来、職務および職責ごとの報酬水準は、事業内容や事業規模などの類似する国内企業を中心にベンチマークをしていましたが、今回の改定により、より一層、海外企業も意識したベンチマークを行います。これにより、優秀な経営人材の確保・維持に資するグローバルに競争力のある報酬水準とすることで、経営人材確保のための競争力を高め、チャレンジングな経営目標達成に対する経営陣のコミットメントを一層向上させ、さらには株主との価値共有の深化を目指します。

#### ・報酬の構成割合の目安

従来、「基本報酬」、「賞与」、「業績連動型株式報酬」の比率は、代表取締役社長において1:1:3を目安としていましたが、今回の改定により、この比率の目安を1:1:4とします。業績連動型株式報酬の比率を、国内外のグローバル企業と比較しても高い水準になるように設定し、業績達成へのコミットメントや株主との価値共有をより高めることを目指します。他の業務執行取締役においても、従来報酬構成で最も高く設定していた業績連動型株式報酬の割合をさらに引き上げます。

#### ・業績連動型株式報酬制度

従来、業績連動型株式報酬制度の評価指標は、「連結売上収益および連結営業利益およびEPS(一株あたり当期利益)」(注1)としていましたが、今回の改定により、中長期では収益性および株主との価値共有をより重視すること

とし、連結売上収益を評価指標から除き、新たに株主総利回り（TSR）（注2）を加えます。TSRの具体的な評価は、TOPIX成長率に対する優劣、およびグローバルに同業他社から、あらかじめ選定したピアグループ企業のTSRとの比較により行います。

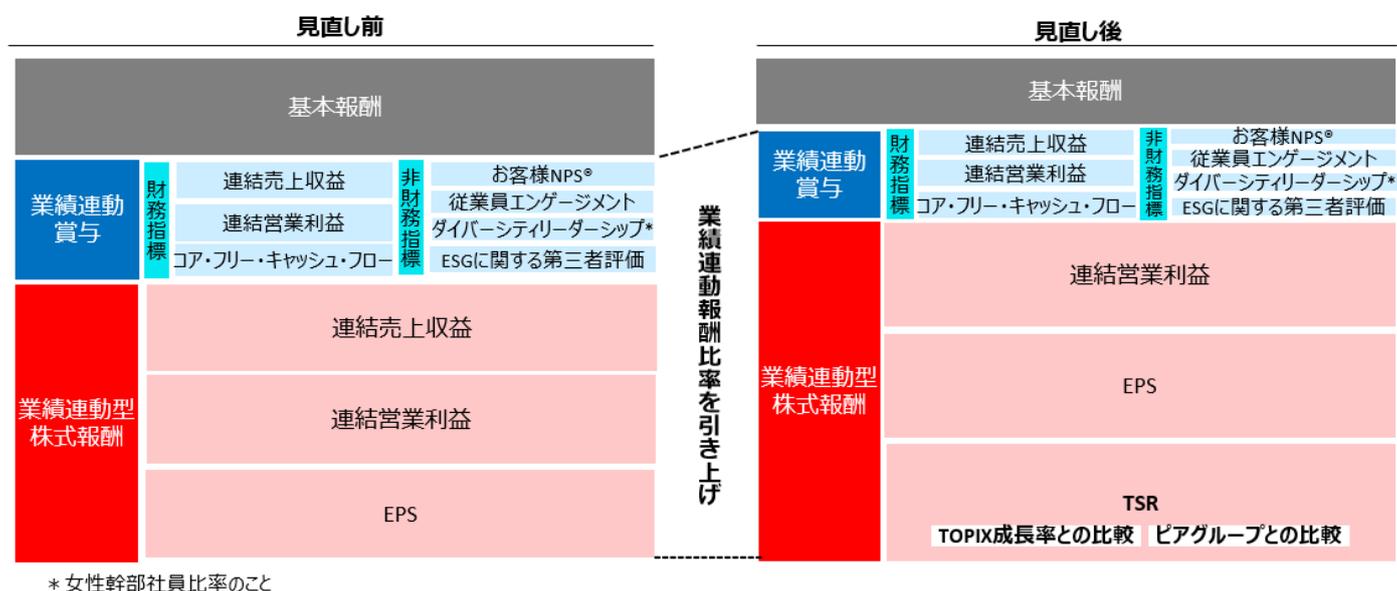


図. 見直し前および見直し後の全体像

## 2. 非執行取締役

- ・譲渡制限付株式ユニット制度

2023年度（注3）より社外取締役を対象として本制度を導入しましたが、今回、当社出身で業務を執行しない取締役を対象者に加え、社外取締役を含めた全ての非執行取締役を本制度の対象とします。他の取締役とともに実効的な経営の監督と助言の役割を担うことを踏まえ、株主の視点で価値を共有することを目的としています。

### 【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

### 【注釈】

注1 営業利益およびEPS：

業績連動型株式報酬制度の評価指標とする営業利益およびEPSにおける当期利益は、2023年5月24日に発表した中期経営計画において、財務面の経営目標として掲げる調整後営業利益および当期利益（営業利益及び当期利益から事業再編、事業構造改革及びM&A等に伴う損益ならびに制度変更等による一過性の損益を控除した、本業での実質的な利益を示す指標）を用いている。

注2 TSR：

Total Shareholder Return のことであり、投資家に対する総合的なリターン（株価の値上がり益+配当金）を測定する指標。

注3 年度：

当社の決算期は3月末日。

## 【関連リンク】

- [「株式報酬制度の改定及び新制度の導入に関するお知らせ」\(2024年3月28日適時開示\)](#)
- [「業績連動型株式報酬制度\(パフォーマンスシェア\)の改定に関するお知らせ」\(2022年4月28日適時開示\)](#)
- [「業務執行取締役を対象とした業績連動報酬の評価指標の見直しについて」\(2023年7月27日プレスリリース\)](#)
- [コーポレートガバナンスの基本的な考え方](#)

## 【当社のSDGsへの貢献について】



2015年に国連で採択された持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)は、世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。富士通のパーパス(存在意義)である「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていくこと」は、SDGsへの貢献を約束するものです。

## 【本件に関するお問い合わせ】

CHRO室

メール: [fj-exec\\_ex@dl.jp.fujitsu.com](mailto:fj-exec_ex@dl.jp.fujitsu.com)